

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農山村振興費

事業名 野生鳥獣保護管理推進事業費 (わな技術向上推進事業)

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部農村振興課鳥獣害対策係 電話番号：058-272-1111 (内 3176)

E-mail: c11427@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,240 千円 (前年度予算額：2,240 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,240	0	0	0	0	0	2,240	0	0
要求額	2,240	0	0	0	0	0	2,240	0	0
決定額	2,240	0	0	0	0	0	2,240	0	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

生物多様性国家戦略に示される4つの危機のうち、第2の危機である自然に対する人間の働きかけの減少等により、農林業被害の拡大や生態系の錯乱につながっている現状がある。

自然生態系への影響や農作物被害を軽減するためには、人間による保護管理が必須の状況となっている。第二種特定管理計画では、ニホンジカ及びイノシシともに、捕獲圧を高めることを被害軽減の施策としているが、捕獲者従事者の減少や免許取得者の技術不足等により十分な捕獲が期待できない。

(2) 事業内容

わな猟免許所持者を対象とした、くくりわな及び箱わなの捕獲技術向上に係る研修会を開催する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県内のニホンジカ及びイノシシによる農業被害は全体の約6割を占め、ニホンジカによる幼木の食害などの林業被害も発生している。その他、自然生

態系への影響、生活環境への被害も懸念されている。こうした被害は、生息数が増加し、生息域が拡大したことが一因とされており、ニホンジカ及びイノシシは、平成26年度に国から「指定管理鳥獣」に指定され、都道府県が主体となって捕獲を行うことが推進されている。

以上より清流の国ぎふづくり推進のためには、県として積極的に捕獲を推進する必要があり、県負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	2,120	ニホンジカの捕獲に係るわな技術向上推進事業
その他	120	業務旅費、需用費、役務費
合計	2,240	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第2種特定鳥獣管理計画（ニホンジカ・イノシシ）

(2) 後年度の財政負担

第2種特定鳥獣管理計画に基づき継続実施が必要である。

事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

ニホンジカについては、年間 15,000 頭の捕獲を維持できる体制を整備する。また、イノシシについては、被害を及ぼす加害獣を効率的に捕獲する技術の普及を図る。以上の取り組みにより、令和 3 年の農作物被害額を平成 26 年度より半減させる。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業 開始前	指標の推移			現在値	目 標	達成率
		(H23)	(H28)	(H29)			
ニホンジカの捕獲 頭数 (狩猟+許可 +指定管理捕獲)	6,554 (H23)	12,382 (H28)	17,908 (H29)	14,061 (H30)	11,151 (R1)	16,000 (R3)	69.7%
イノシシの捕獲頭 数 (狩猟+許可)	9,288 (H23)	10,416 (H28)	13,073 (H29)	10,716 (H30)	5,875 (R1)	15,000 (R3)	39.2%

○指標を設定することができない場合の理由

--

(前年度の取組)

・事業の活動内容 (会議の開催、研修の場所等)

令和 2 年度わな技術向上研修会

開催日 場所

9 月 9 日 美濃市

12 月 12 日 高山市

(前年度の成果)

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

2 回の研修会で約 40 人の受講者がわな捕獲の技術について学び、捕獲意欲も高まってきている。そのため、今後受講者を中心として、捕獲数の増加が見込まれる。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	<p>わな捕獲は適切な方法や効果的な場所選び等によって捕獲数が大幅に変わるものである。そのため、研修会でそれらを学ぶことは重要である。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) △	<p>令和元年度捕獲頭数は、ニホンジカ、イノシシともに平成30年度と比較して減となった。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	<p>事業の委託先と連携を密にすることで効率的に事業実施することができている</p>

(今後の課題)

<p>狩猟者の高齢化が問題となっており、捕獲圧を維持していくことが困難となる。このため、捕獲従事者の確保し、効果的な捕獲方法の普及が必要となってくる。</p>

(次年度の方向性)

<p>有害鳥獣捕獲の担い手の高齢化が叫ばれる一方で、ニホンジカ、イノシシによる農作物被害が深刻化している。については、研修会を通して、新しい捕獲従事者を即戦力として育成し、効率的な捕獲方法を普及することで、捕獲圧を高め維持していくことにより、農作物、自然生態系、生活環境への被害軽減を目指す。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	<p>該当なし</p>
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	<p>該当なし</p>